※　未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 1　シラバスに沿って授業を行えた。

①:10（77%）　②:3（23%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 2　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:8（62%）　②:5（38%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 3　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:7（54%）　②:6（46%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 4　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:9（69%）　②:4（31%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:9（69%）　②:4（31%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:11（85%）　②:2（15%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:9（69%）　②:3（23%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（8%）

設問 8　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:5（38%）　②:4（31%）　③:4（31%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:10（77%）　②:3（23%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:10（77%）　②:3（23%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　1（8%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　12（92%）

③他大学の FD 活動の視察：　3（23%）

④その他：　3（23%）

設問 12　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　4（31%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　12（92%）

③他大学の FD 活動の視察：　4（31%）

④その他：　2（15%）

設問 13　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　回答：8 クラス（順不同）

[1] 分かりやすい内容を心がけ、興味を抱いてもらえるよう努めた。

[2] 講義において、学生の理解が深まるように、各回の問題設定を明確にし、わかりやすい説明に心懸けた。

[3] 「課題が多かった」という意見があったので、分量を調整した。・・・2 クラス

[4] 発問の回数を増やした。

[5] グループで協働して活動する時間を増やしました。

[6] 教室において習得する知識の量を減らし、ディスカッションの時間を増やした。

[7] 2015 年の学生の授業評価において、アクチブラーニングの組み分けを学部横断で組んで欲しいとの意見があったが、グループ学習調査は講義外で行わせたので、近い学科でグループを作った。よって改善は行わなかった。

設問 14　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　11 クラス（順不同）

[1] 法律はまず、基礎知識の理解が必要であり、グループによる議論などアクティブラーニングが難しいと思う

[2] 多学科の先生方によるオムニバス形式のため、内容が充実している点は、この授業の評価できる点である。

[3] ビブリオバトル、映像教材など多様な学習経験を組み合わせ、日本の大学という一つの問題を掘り下げるアプローチについて毎年開発と改善を繰り返している。

[4] 予習・復習をあまり課さなかったので，来年度以降，学生の授業時間外の学習への取り組みを促したい。

[5] 新たな科目であったことから、試行錯誤しながら進めた。予想していたよりも学生のグループ活動に時間がかかり、当初の予定通り進まない時間もあった。また、全学部の学生が受講していることから、レベルにも少し差が見られて、一部の学生には退屈な箇所があったようである。とはいえ、グループ活動を主としたことで、学生は積極的に授業に取り組んでいたと感じるし、また、最後のテスト結果を見る限り、目標はそれなりに達成できていたといえる。グループメンバーによる活動の偏り（志向性、レベルなど）をなくすため、グループは各学部のメンバーで構成されるようにし、また、3 回変更した。

[6] 講義前半で基礎的知識の習得を行ったのちに、グループ学習-発表へと移行した。これによりグループ学習もより深まったと考えます。またグループ作業では個々の評価が困難であるため、個人レポートも課しています。

[7] 座学型のアクティブ・ラーニングという点では、学生の能動的参加を引き出すために、フィードバックシートへの回答、ワークショップ法を用いたグループワークの練習、プレゼンテーションなどバランス良く実施できていると思う。・・・2 クラス

[8] 時事問題にアプローチするために地方創生をとりあげた。その際、4 つのテーマを与えて選択する方法を採用したが、学生がテーマを絞り込む上で有効だった。

[9] グループ討論のために、各自が事前に調査しておくことを課している。また報告内容や質問事項、討論内容を記入する討論メモに記入させ、質問事項の記入時間を設けるように指示した。そのため、各班とも授業時間の最初から活発な報告や討論が展開された。

[10] 講義室が、年によって変わるので、前年のグループ学習の様子を参考にデザインをしても、その通りにはいかない。また、教育学部の視聴覚設備に不慣れで、またほこりをかぶっているので、機能するのかが心配である。また、教室の掃除、黒板の清掃が十分でない。また、1 階ロビーの掲示板等の配置が悪いので、玄関付近の雰囲気が良くない。

設問 15　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　11（85%）　　②いいえ：2（15%）　　未回答：0（0%）

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17　下記のどの点を重視しましたか？（**複数回答可**）

①聞いて理解する：　8（62%）

②読んで理解する：　5（38%）

③自分の考えをまとめて話す：　9（69%）

④自分の考えを文章にまとめる：　7（54%）

⑤討論する：　10（77%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：8（62%）

⑦その他：　3（23%）

設問 18　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　10 クラス（順不同）

[1] 定期試験のレポートに関するピアレビューとそこでの発見に関するグループディスカッション。

[2] 教員は、プレゼンテーションに対して悪い箇所および直してほしい所を、講義を通じて頻繁に指摘しないと学生が伸びないと思う。そのためには、教員の講義中の言動が、学生がまじめに受け止めようとするような言動や態度になっているのかが重要です。

[3] グループでバリアフリーマップの作成を行った。他学部の学生とのコミュニケーションが必要である。

[4] 授業時に，アイスブレイク，音楽活動，企画立案とプレゼンなどグループでの活動を数多く課し，グループのメンバーとの言葉や音を介したコミュニケーションをおこなえるようにしている。

[5] 3～5 人という少人数のグループによって、気兼ねなく各自の調査内容や考えを発言できるように心懸けた。

[6] 5～6 人のグループ討論と発表を実施した。各自、ppt 資料の作成と模造紙への書き込みを通して役割の自覚と主張の明確化を促した。

[7] 授業ではグループごとに着席し、授業の中の数十分、あるいは、授業の大部を費やしてグループ討論や、グループ発表準備を行うことが、約半数の回（7 回程度）であった。グループ活動では、中国史の流れを確認するために時代とテーマを決めて討論したり、そうした内容をまとめて発表したりした。

[8] グループ学習および発表会を実施しました。

[9] 2 クラス：

・「聞く作法」の教授による傾聴力の向上

・ワークショップ法を用いたグループワークの方法

・プレゼンテーション法の教授

D（問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　7（54%）　②いいえ：　5（38%）　未回答：　1（8%）

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　4（31%）　②６～10 回：　1（8%）　③11～15 回：　2（15%）

未回答：　6（46%）

設問 21　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　4（31%）　②政治・経済・産業：　5（38%）　③自然環境・フィールド体験：　2（15%）

④その他：　1（8%）

設問 22　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　4 クラス

[1] 宮崎県都城市にあった唐人町（中華街）から、その当時（16 世紀後半から 19 世紀にかけて）の世界を知ることを目指した。

[2] 宮崎県において、教員が実際に作業に携わった座礁した鯨類の調査の紹介、宮崎県を代表する生物の紹介、宮崎県の動物管理行政の紹介

[3] みやだい COC 推進室開設科目。・・・2 クラス